

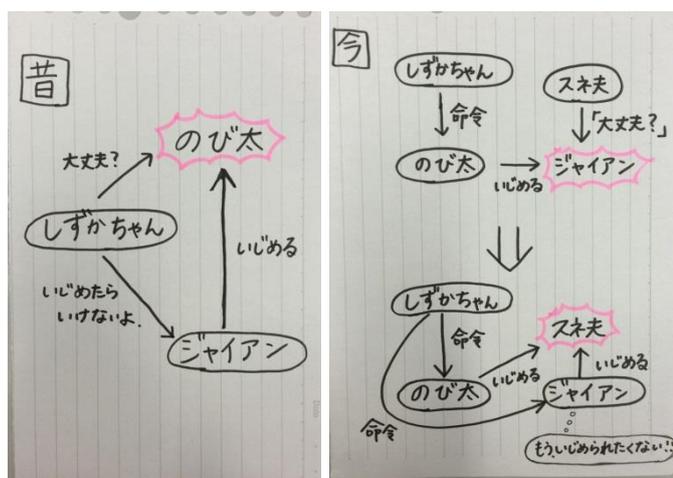
○いじめの定義

「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」 (文部科学省 H.18)

○昔のいじめと今のいじめ

ドラえもんの登場人物で考える。(右図)

いじめの内容は仲間外れや無視、暴力、最近ではネットいじめ(掲示板や SNS の利用による)など様々である。今のいじめの特徴はゲーム感覚で行なわれていることであり、いじめるための「理由」は特になく、「差異」を生み出すために行なわれている。また、陰で行なわれることが多く見つけにくいため、教師が気付いた頃には遅かった(登校拒否、自殺など)ということもあり得る。



○どうして「助けて」と言えないのか

現実を受け入れたくない、恥ずかしい、言えばもっといじめが酷くなるかもしれない、(両親などに)心配されたくない、という思いを持っている児童生徒が多いのではないかと考える。また、この現状をクラスメートは(場合によっては教師も)知っているはずなのに見て見ぬふりをされている、と思ってしまうことも助けを求めることができない原因の1つだと考えられる。(傍観者も加害者)子どもは「助けて」と言葉に出して言えない代わりに何らかの方法で SOS を送っているが、送られた相手は気付かないという現状もある。

○教師はどうしていくべきか

いじめをなくすことは非現実的であり、「学校からいじめをなくす」ことは、「日本社会から犯罪をなくす」こととほぼ同じ意味である。しかし防ぐことはできる。「日頃から個に応じた分かりやすい授業を行うとともに、深い児童生徒理解に立ち、生徒指導の充実を図り、児童生徒が楽しく学びつつ、いきいきとした学校生活を送れるようにしていくことが重要である。」(文部科学省)

いじめが起こってから対応するのではなく、日頃からいじめが起こらないような指導をするなど、授業づくりや学級経営の中で教師だからこそできる対策があるのではないかと考える。